

177

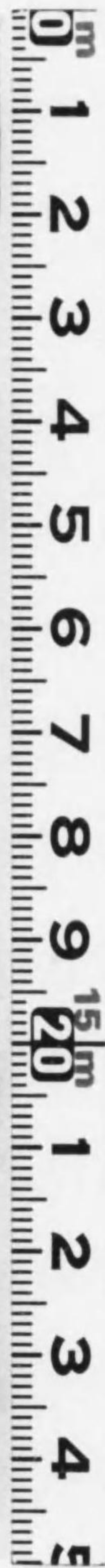
特240

218

昭和十二年十一月
資料第一〇號

列國の干渉と日支事變

社団法人 兵庫縣工業會



始



177

特218

218

昭利十二年十一月
呂資料第一〇號

列國の干渉と日支事變

法人團 兵庫縣工業會

特 240
218

本編は昭和十二年十月十二日兵庫縣會議事堂に於
て本會が主催せる國民精神總動員大會席上に於け
る講演を筆記せるもの、文責は勿論編者に在り。



國民精神總動員大會兵庫工業大會演講會



鐵洲紡織株式會社々長津田信吾氏の近影及其筆蹟

津田信吾

津田信吾

列國の干涉と日支事變

鐘淵紡績株式會社

社長 津 田 信 吾



日支事變と共に當然來るべきものが到來せんとし
つゝある。夫れは列國の干涉である、が併し決し
て怖れてはならぬ。

日支開戦既に九十餘日を経過致しました。其間皇軍により示された赫々たる武勳と世界の戦史に比類を見ざる偉大なる戦果に對し、國民は齊しく感激して居る次第であります。然るに支那の敗戦が漸く明かとなるに連れ、失望を感ずる國が尠くないので



ありまして、最近起りつゝある歐米からの非難は即ち其顯はれであります。

支那は各國權益の坩堝であり、國際情勢の縮圖であります、従つて今後我國が更らに戦果を收むると共に、此傾向に拍車をかけるものと覺悟せざるを得ないのであります。然しながら此上如何なる國難が加はりましても、我將兵各位が血達磨になつて苦闘を續けられる其辛酸を我身に負ふだけの覺悟が國民にあれば、國際情勢が今後どの様に變化しても敢て怖るゝに足らぬのであります。然し乍ら此度の日支事變は、其量に於ても亦質に於ても恐らくは現代人の一生を通じての最大難局であり、又最後のものでありませう。我國民は敢然として此國難を甘受しなければなりません。多年に亘り東洋に低迷伏在する一切の妖雲を一掃し、其禍根を斷ち以て再び戦ひを要せざる大日本を、次の時代への贈物として引繼ぐのが此戰の意義であると思はれます。

支那の如き自ら守り、自ら治め得ざる隣邦あるが爲めに、我國民は幾度泣かされたか、又幾十萬の鮮血と幾十億の國帑を彼國の爲めに捧げ來つたかを考へて見たい。そして其度毎に、大義名分を一步も踏み出した事のない正義日本は、仁の爲め義の爲め

にのみ戦つたのであります、未だ嘗て利益の爲めに戦つたことは一度もないのであります、夫れが因となり、果となつて幾度も聖戦を繰り返して居ります。佛の顔も三度と云ふ事がありますが此度と云ふ此度は、斷然思ひ知らしめなければならぬと存じます。彼れの背後に如何なるものが潜んで居つても斷じて許してはならぬ、機は既に熟せり、鐵は熱下に打つべし、左顧右眄して列國の鼻息を窺つて後決すべき問題ではないのであります。我國は宜しく天の啓示に従ひ正義必勝を期し、全力を擧げて戦ふべきであります。正義日本の期するところは、隣邦支那の惡政權を打倒して、四億の民衆に安住の世界を興へ、以て四千年來味ひ得なかつた善政を滿喫せしめ、東洋平和の確立を期せんとする一大聖業であるのであります。

然るに列國は故意に我國を傷け、兎角の論議を加へんとして居ります、憐むべき個人主義の列強は精神文化の世界あるを知らず、唯物史觀の奴隸となり己れの心情を以て日本を誹謗し、己れの醜き姿を以て日本に擬せんとするものであります。此れに對し日本は今世界に向つて、尊嚴極りなき我國體の精華を發揚し君民一體の家族主義の

國家が如何に強きものであるか、又降魔の利劍が如何なるものかを如實に示しつつあるのであります。

蔣介石により仕組まれた此度の戦、夫れは日本を屠らんが爲めに企てられた戦であります、そして此準備の爲めには既に十有八年の歳月を要して居ります。五百餘章の教科書に三百に餘る排日資料を織り込み、頑是なき兒童の童心を穢し、侮日抗日で我國の名譽と權益を蹂躪して尙ほ飽き足らず、遂に矛を把つて皇軍を襲ひ、無辜の在留民に鬼畜と雖も爲し能はざる慘虐を敢てしたのであります。此の如き暴戾と慘虐に對し尙ほ忍び得る國が世界の何處にあり得るか、凡そ世界に國を建つるものが他國より絶大なる侮蔑を受け、攻撃を受けたる場合直ちに起つて應戦し、敵の殲滅を期するに何の不都合があり得るか。

國際聯盟は好んで國際正義を口にする、而かも加害者であり、權益の侵略を敢てして憚らぬ暴戾支那の味方となつて、被害國であり正義と隱忍を事とする日本に對し、嚴肅に非難すると云ふ狂態振りとは嗤ふべき失態でありまして、天下嗤ふべき事の多き

中にも此の如きは其最大なるものであります。殊に最近彼れ等は九ヶ國條約と不戰條約を以て、我國の反省を促さんとして居るのは唯御苦勞千萬と申すの外はありませぬ。九ヶ國條約は大正十一年二月ワシントンの條約でありまして支那の領土保全と門戸開放、機會均等と特殊利權獲得の防止を申合せたものであります。又不戰條約は昭和三年の條約でありまして、國策の手段として戰爭を放棄せんとする申合せであります。此二つの條約は支那の權益に満腹した國々が日本の進路に制壓を加へ、支那の友情を引出さんが爲めに作り上げた偽裝正義の標本でありまして、何等の制裁を供はない空手形であります。蔣介石は此空手形を百萬の味方と頼み、彼れが双翼に排日の風を孕ませて民衆を煽り上げ、以て今日の戰禍を巻き起したのでありますから、其罪惡の一半は聯盟自ら此れを負ふべきであります。利慾と御都合主義の聯盟に縋り自己の慾望を達せんとする蔣介石が、其最後に於て聯盟から脊負投げを喰ふのは遠き將來ではないのであります。

日本は最早道草を喰つては居られない、一路猛進目標に向つて舉國一致の怒濤を送らねばなりません。南京城頭高く日章旗が翩翩として翻る時、昨日の敵は今日の味方

と成り變るでありませう。然し乍ら我國が最後の目的を達成するには戦に勝つと同時に、其後に於ける戦果の確保に付て一大決心が必要であります。

聯盟は狡智奸策を弄して我國を誘ひ或は恫喝を試みるであります。併し乍ら此度こそは斷じて怖れてはならぬ。外交戦は今序幕の初めであります。波瀾と難局は今後に横つて居ります。國民は須く眞劍でなければなりません。如何なる事が湧き起つても金輪際、戦果を失つてはならぬのであります。再び殉國の英靈を地下に泣かじめぬ覺悟が大切であります。戦死病傷者に對しても亦遺族の方々に對しても此度の戦をして千古に意義あらしむる義務があります。又我同胞が支那内地から追はれて刻苦經營幾十年努力の結晶を放擲して引揚げた其無念さを憶はざるを得ませぬ。支那の各地には殉國勇士の忠魂碑が天高く聳へ立つて居りますけれども、今や一人として訪ふ人もなく忠魂は異境に在りて空して夜泣きをして居ると云ふ現狀は泣かざるを得ませぬ。今度こそは一度占領した地方は無條件に返してはならぬと思ふ。私は平素竊かに我國民の無氣力を悲しく思ふものであります。

支那は歐洲より來れば世界で一番遠い國であります、我國より申せば恰かも南米ブ

ラジルの遠きに當ります、然るに歐洲の列國は既に百年前から支那の沿岸を占領し國內の利權を壟斷して我が物顔に振舞つて居ります。我國が此形勢を傍觀して何等爲すところなければ、遠からず日本は大陸から完全なる縮出しを受け封鎖を受けたと同様窒息するところであつたのであります。東洋の天地は最早彼等が爲す儘に放任する事は出来ませぬ、支那の實狀を見る時我國眠れりの感を禁じ得ないのであります、香港上海は云はずもがな、濟南青島天津の歴史を回顧する時、海一重隔てた日本の姿を悲まずに居れませぬ、我國は長年月の間確かに歐洲人から鼻の先を嘗められ愚弄されて居たと云ふ氣恥しさを感ずる、是れが私の實感であります。

日清戦争以來の臥薪嘗膽の緊張振は日露戦役により薄らぎ、歐洲大戦により忘れ果てたかの觀あるは心あるもの、齋しく憂とする所であります。此機運を察知した蔣介石が、國內統一の用具として又人心收攬の爲めに利用し排日侮日を計畫したのであります、假令夫れが彼れの淺慮の結果であるとしても、曩きには滿洲を失ひ今又戦火を以て我れを迎へんとする、如何に彼が我國を輕視したかを知ることが出来ず、彼れが我國の外觀を見て方に乘すべしとなし、深く我國民性を理解せざりし罰は彼れに

存するとしても、彼れの輕侮を招きし原因が我れの退嬰主義と無氣力にありとすれば、今少しく卒直に發言權を行使し再び彼國をして誤認せしめざる覺悟が大切と思ふ次第であります。

翻つて想ふに、我民族は三千年の國風に培はれ神と佛と儒教の教化を受け、世界に類似なき國柄を築き上げて來たのでありますから愛國の精神、殉國の精神は民族の血液の中に潜在意識となつて満ち溢れて居ります、此尊き血潮は事あるに當りて瀑布の如く又嵐の如く湧き立ち、何者をも怖れず此れを粉碎せざれば歇まぬ勇猛心となるのであります、然しながら事收まるや隱忍自重と謙讓の美德に立戻つて限りなき靜寂に歸ると云ふ奥床しさを持つ一大美風ではあります、此純眞なる東洋哲學を解せざるものより見れば、事毎に意外と感じ日本は陰險なる國民とさへ解する場合があり、蔣介石にとりても今此威を深からしめた事と思ふのであります。列國亦然りでありまして、彼れが以て意外とするところも我れよりすれば當然なりと云ふ此相違は國情の相違であります、日支間に屢々戰禍を見るのは夫れが爲めであります。我國は今少しく卒直に且つ大膽に其所信を披瀝するを可なりと認むるものあります、今後我

國が眞に東洋の平和を求めんとするならば、支那の精神文化を我れに近付ける事が其根本策でありまして、結論から申せば我國が彼國を抱擁し將來彼國が完全なる國家として自立し得る迄我國が預つてやる、そして限りなき皇恩の一端に浴せしむる事が支那四億の民を救ひ、世界を平和に導く所以であると信する次第であります。

支那の爲政者は力あるを知りて徳あるを知らず、私兵を提げて内亂を事とし民生を苦めて其福祉を念とせず私利私慾に終始するのが彼等軍閥であります。蔣介石は國內統一を志すと雖も求むる所は彼れ個人の名譽と私慾であり、一言にして盡せば宋家の私黨であります、口には三民主義を稱へながら彼れの豹變振は目を蓋ふものがあります、信念なき爲政者の國に信義のあり得様はないのであります。禍なるかなは四億の民衆であります。

支那は四千年の昔から戰禍の絶へ間がなく、暴政に次ぐに暴政を以てし民は塗炭に苦んで居ります、儉勉世界に比なき支那農民が逆に世界一の貧窮に苦しみ、商工業に従事するものは浙江財閥にあらざれば人に非ずの待遇を受け、財産は申すに及ばず生命さへ不安に曝されて居ります、此支那の暴狀は獨り支那自身の禍に止まらず、累を

我國に及ぼす切なるものがあります。蔣介石政權の存在は最早天人共に許さざる所であり、遠き昔の歴史を見ても、最近の暴狀を見ても支那は最早自ら治め自ら守る資格なき社會であると證明して餘りがあります、彼れを葬むり彼れの背後に操る一切の妖雲を一掃して斷呼たる處置に迫られて居ります。

西安事變以來蔣介石は二頭の馬に跨つて居ります、思想的には蘇聯の馬に乗り經濟的には英國の馬に跨つて居ります。彼れ自身は巧に此兩馬を乗り廻し、日本怖るゝに足らずと大見榮を切つて居ります、將を射んとすれば先づ馬を射よと申す事があります、今後馬の動き次第で此れを討たなければなりません、馬を怖れて討たざれば我れ亦彼れの馬蹄に蹂躪せらるゝ時が参ります、東洋平和の獲得は此馬を驅逐する事でありませぬ。

英國は欺瞞と侵略で世界の四分の一に餘る土地を領有し恫喝と殺戮を以て十億に餘る有色人種を組み敷き世界の富を壟斷した横着者であります。我國人にして英國に遊ぶものは齋しく燦然たる物質文明の偉容に眩惑され讚嘆して歸つて参ります、然し乍ら彼國に輝く金字塔は何んぞ圖らん東洋奪掠の記念物であり、彼等の富の大半は憐む

べき東洋民族の無智に乗じて搾り上げた血液の結晶である事を忘れてはなりません。英國民は此不淨の財寶に悠揚迫らざる風格を裝ひ微笑を以て東洋人を迎へるのであります、かゝる態度は征服者が被征服者に對し殊更に示さんとする優越感に過ぎないものであります、親英論者は此薔薇の花の裏に毒を含める針のあるを知らなければなりません、古今東西に亘る英國の侵略史は何を物語るか、そして其配下にある諸民族が如何なる待遇を受けて居るかは明らかであります、煙幕の彼方に彼れを置いて東洋問題を議するは鬼の前に念佛を唱ふる様なものであります。

英國の外交政策は功利主義の一語に盡きます、正邪曲直敢て問ふ所にあらず、欺瞞撞着は彼れの常套手段であります、常に正義らしき覆面を被り利劍を懷ろに藏して迫るのが彼れの外交であります。我國が長者に對する禮を以て彼れを迎へても、謙讓の美德を高く捧げても日本道德の何物なるかを解せざる彼れには何の効果も望み得ないのであります。

英國は幾度も我國を泣かせて居ます、日英同盟も要するに彼れ自らを利した國策であつた。世界大戰に番犬の役目を果させた後は、彼れは弊履の如く脱ぎ捨て逆にシン

ガボールの要塞を強化して我を脅かし、華府會議、ロンドン會議、滿洲事變、聯盟退退を通じて示した彼の豹變振りは唯巧利主義を以て一貫せる彼れの正體を語つて餘りあるものであります、其後支那が日貨排斥を年中行事の如く行ふに至つたのも總ては英國の使嗾によるものであります。其結果日本の製品は支那の市場から完全なる締め出しを喰つたのである、そして日本の製品は新たに其生命線を獲得する爲めに多年苦勞を積んだのである、或は南洋に流れ、印度に向ひ、埃及に進み歐洲と南米へと流浪の旅を重ねたのであります、此の如くして漸く我國製品が普及するや、彼れは抜く手も見せず全力を擧げて極度の高關稅を課し、列國を誘ふて狂奔した其暴戻振りは言語に絶するものがあります。自國貿易の爲めには人道を無視して我良質安價なる土民の必需品を其領土から取上げて省みず慘々暴威を振つたのであります。然るに彼れは此必死の努力にも拘はらず遂に其目的を達せず、却つて印度の如きは内地の工業を獎勵する結果に陥り、彼れの販路も亦同時に失ふの愚を悟るに至つたのであります。

此の如く新興日本の躍進が著しく彼れの自尊心を傷け、又其不安の種となつたのであります、我國の機械工業の進歩と纖維製品、雜貨其他の進出が彼れの手により防ぐ

事が出來ず、又我國重工業の發達がやがて東洋市場を失ふべき事を極端に怖るゝに至つたのであります。彼れは此の如くして日本制壓最後の手段と撰んだのが支那をして日本と戦はしめると云ふ作戦であります。其目的を達する爲めに彼れは支那をして日本の經濟力と軍備の一角を崩さしめ、以て自己の勢力を維持せんとする反間苦肉の策を採るに至つたのが此度の日支事變の根本原因とも申すべきものであります。

一 昨年の成都事件、上海事件、北海事件で打診を行ひ日本弱しと見て以來彼れは蔣介石と堅く手を握り其工作を進めた事は、英國の支那に於ける御節介振りによつて判斷する事が出来るのであります。此度の上海事件に當り大山事件の交渉に工部局が冷淡であつたのも、戰禍正に爆發せんとする前夜の領事會議の模様を見ても、又戰前支那側が條約を破棄して上海の停戰地區に四萬の大軍を容れ陣地を構築するも何等の抗議をなさず、ことに八月十九日共同租界が支那正規軍の侵入により兩斷されんとするや工部局の公安隊は一片の通告を以て即時撤退をなし支那暴兵の下に我居留民を曝らしたのであります。當時三千の寡兵を以て若し克く六萬の大軍を引受け得ざりしならば我居留民は通州事件の何十倍かの慘害を蒙つた事は明かでありまして眞に寒心に堪

へざるものがあります。英國の誠意なき仕打は深く遺憾とせざるを得ないのであります。加之英國は上海作戦に少なからざる妨害を敢てした事は既に公知の事實であります。此歴然たる英國の敵意は香港を通じて現に行ひつゝある共同作戦と相俟つて如何に善意を以てするも最早第三國として取扱ふべきものではないと考へます。徒らに禮儀を盡すは却つて侮を受ける怖れがあります。法理論に捉はれて濫りに沈黙を守り彼の慢心を増長せしむることは眞に時艱を憂とするものゝ遺憾とする所であります。

カセイホテルやパレースホテルの慘劇もプレジデント、フーパー號の爆破事件も敢て問ふ事をせず、獨り我國に對し毒舌を振ひ、聯盟の陣頭に立つて英國の外務次官が「廣東の空襲が世界に與へた恐怖は言葉では表現出來ない、英國政府は之れに對して抱く絶大なる嫌惡を聯盟に記録し委員會が斯る行爲を明確なる言葉を以て彈劾せん事を希望すると」と述べ其結果として聯盟は我國の空襲を嚴肅に非難すると云ふ決議を通過致しました。私の見る所では廣東の空襲に恐怖を覺へたのは世界ではなく英國のみであつた。そして其恐怖は彼れの良心から湧き來る恐怖であると解すべきであります。此の如き事は聯盟に訴へる前先づ自己反省が賢明であると思ふ。私は英國は最

早敵か、味方か、中立かを明白に宣言すべき時機に到達した事を注意したいのであります。

英國は支那を恰かも自國の鴨池とでも解し居るのでありまして他人の近付く事を極端に嫌ひます。そして百五十年の久しきに亘り音も立てずに此鴨池から驚くべき收穫を得て居ります。北京の宮殿には金銀寶玉を鑲めた驚くべき大型の時計や珍器が多數に展觀されて居ります。之れは英國が乾隆の昔から年々清朝の歡心を買ふ爲めに贈つた貢物であります。教會を建て學校を寄附して其懷柔に務めました。支那ならずとも英國の好意を肝銘するに充分であります。然し乍ら彼れが此鴨池から掬ひとる收穫に比すれば問題とはならぬ程の贈物であります。礦山に、港灣に、鐵道に、更に莫大なる軍器の賣込を通じて支那を利用するに抜目はないのであります。西藏も、四川省も既に鶉呑にして居ります。新疆と青海は蘇國と折半して涼しい顔をして居ります。鴨は鳴き聲一つ立てず此鴨池から奪はれて行きます。併し乍ら日本は英國の鴨池を申受けん云ふものではありません。

日支兩國は地理的關係に於て不可分である以上、英國の爲め支那から封鎖を受くる

ことは断じて甘受し得ないのであります。何となれば我國は何れの方向たるを問はず日本より一步踏み出せば其總ての地方は英國のものであります、そして英國が日本の進出を極力排斥すべく奸智奸策を弄し憚からざる以上日英兩國の利害は絶對に兩立しない事を深く銘記しなければなりません、此度の戦に於て排日の本家、廣東一帶の地方を爆撃した事は天譴とも申すべきであり、支那海を封鎖された香港が孤立に陥り、今や香港のヒンタラントが粉碎された事は支那の罪であると共に彼れ亦其罪の大半を負ふべきであります、英國にして何等省みるところなく此地に於て共同作戦を繼續する時當然鐵火の洗禮を受けるであります。東洋は断じて英國の東洋ではない事を知らしむる事が此大局を善處する所以ではないかと思ふのであります。

次は蘇聯であります、蘇聯は我國と相容れぬ國柄であります。蘇聯は箇人主義の世界を代表する最左翼であり、我國は家族主義に立つ最右翼であります、此の如く思想戦線に於ける兩極でありますから日支戦争に相手か味方が敢て問ふ必要はない。参戦するも可なり、然らざるも可なり、要は時間の問題と解し得るのであります。我國には彼の國土の廣きに怖れをなすものがあります、然しながら人の住まぬシベリヤの

氷原が何萬里ありましても、夫れは北極と同様で何の効用もない、敢て鬼面人を驚かすに足らぬのであります。問題は飛行機と戦車であると申します、然しながら既に示されたる皇軍の威力を現實に見た彼れに戦意ありとは解し難いのであります、綜合的國力に於ても又精神力の薄弱さに於て相手として怖るべきものではありません、今は唯英國の尻馬に乗つて蔣介石の御用を辨ずると云ふに過ぎませぬ、蘇聯にとつては嘗つて我國と闘はしめた仇敵の英國と手を握り欣然として支那の後馬に乗つて居る人の良さは寧ろ氣の毒と申すべきであります、彼れが外蒙古の沙漠地帯に盤踞する間は深く咎むべきではないが彼れより來る迫害は一步も譲る事は出來ない。

最後に日支事變を饒りて記憶すべきは、英國が香港を通じて武器の賣込に狂奔しつゝある例に倣ひ、佛國は佛領海防を通じ武器の賣込みに狂奔し雲南に轉送しつゝある事であり、今一つは佛國が天津事變に當り萬國橋を遮斷して天津停車場と日本租界の通行を禁じ、我軍民を窮地に陥れ人道を無視したる彼れの措置は永く記憶に止むべきであります。此れに引換へ正義を念とし理非曲直に明かにせんとする獨、伊兩國こそは正義の味方であります。此度の事變を通じて堂々として其所信を明かにし我國に

好意と熱意を以て支持しつゝある勇敢なる態度には全幅の敬意を表する次第であります。もし夫れ米國の輿論に至つては宋美齡のヒステリックな訴へに釣り込まれ不用意の間に發する自由の言葉として又彼の國獨得の國風と大觀すべきであります。日米兩國は經濟的に共存共榮であり、彼れより背き得ざる國情でありますから懸念の要はないと存じます、けれども我國は他國を頼つてはならぬ獨力此大難局を打開すべく重大なる決心を持たなければなりません。

列國の情勢概ね此の如くであります、我國としては彼等の向背如何を問はず猛進する外はありませぬ、我國は支那の暴戾を征服することが正義であると思つて進む以上、何れの國と雖も此正義と其實力の前に追隨し來るは明白であります。支那に權益を有するものは我より求めずとも彼より來りて和協を希ふであります、我國としては小我を捨て、大乘に立ち、戰つて勝つ事が先決問題であります。光榮ある戦勝の下に於てこそ日支親善あり、日英親善求めずして來るのであります、然るに我れより手を差延べ來るを待たずして失敗した事は幾度なるを知らぬのであります、豫め彼れに了解を求めんとするのは山の上から綸を垂れ海に魚を釣らんとする類であります。

國情の相違に氣付かざる外交は失敗であります、我國の申分が二百パーセント正義であつても巧利主義百パーセントの彼等には五十パーセントにも通用致しませぬ。我國は決して鬭争を好むものではありません、平和を欲するが爲めには戦はざるを得ませぬ、國際間の紛争は其終局は戦であります、眞の平和は勝利の後に來り、勝利は百パーセントに正義によりて裏付けせらるゝのは古今東西の實例であります。此度の戦は武力戦であり、經濟戦であると申します。私より見れば思想戦であります、精神の闘であります、西洋文化と東洋文化の決戦であると思つてあります、個人主義勝つか、家族主義勝つかの一大決戦であります。久しく妖雲に閉された東洋の天地も皇軍の勝利により秋空の如く晴れ渡るであります、明朗なる日支關係も東洋の平和も日英の親善も此聖戦の戦果として生れ得るのであります。

永年惱まされた東洋問題は我國民の大勇猛心によりてのみ解決し得るのであります、従つて此偉大なる自的の達成は何に依りて求め得るか、答は至極簡單であります、軍民殉國是奉公の一語で盡きます。此覺悟にあらば百億の戦費怖るゝに足らずであります、我國富は概算千二百億と註されて居ります、夫れが使へる金であつても

なくとも戦費資源として計上するに不都合はない筈であります、其一切を擧げて國に殉ずるのが大和民族の本領であります、仁徳天皇は民の富めるは朕の富なりと仰せられて在ります、君民一體盡忠報國の誠を致し國難に當り、一致團結以て其一切を捧げて神の心に歸一するならば此難局を突破するは何でもない筈であります。

萬歳を三唱して感謝に満ちて護國の鬼となる戦士の純情を想へ、そして死んで歸れど勵まして送る勇士の母の心境を懷へ、馬も、犬も、鳩も、戦の庭に黙々として死んで行けるではありませんか。戦争なき次の時代を建設する最後の聖戦に際し幸に生れ合せた現代人は光榮であります。富めるものも貧しきものも其一切を擧げて奉公の實を擧ぐる秋を迎へたのであります、斯くしてこそ初めて光榮ある大日本の姿が世界に浮び上り、國利民福亦限りなきを得ると堅く信ずる次第であります。

昭和十二年十一月二日印刷
昭和十二年十一月二日發行

非賣品

法人團 兵庫縣工業會

編輯兼 發行人 主事 西間木 吉 一

神戸市蘇合區布引町二丁目
一番屋敷ノ二五

印刷者 近 藤 榮

兵庫縣廳内

兵庫縣産業獎勵館内

發行所 法人 兵庫縣工業會

電話壹合一〇八三番
振替神戸七七〇六番

終

